

## トピック ― 野菜の輸入動向について（1～3月の比較） ―

平成25年の1～3月の野菜全体の輸入量は、対前年89%の66万トンとなり、前年をかなり下回った。

直近の1～3月の動向を見ると、平成23年及び平成24年は、主に国内産の不作により、輸入量が増加し、過去最高の平成17年の水準に近づいていた。

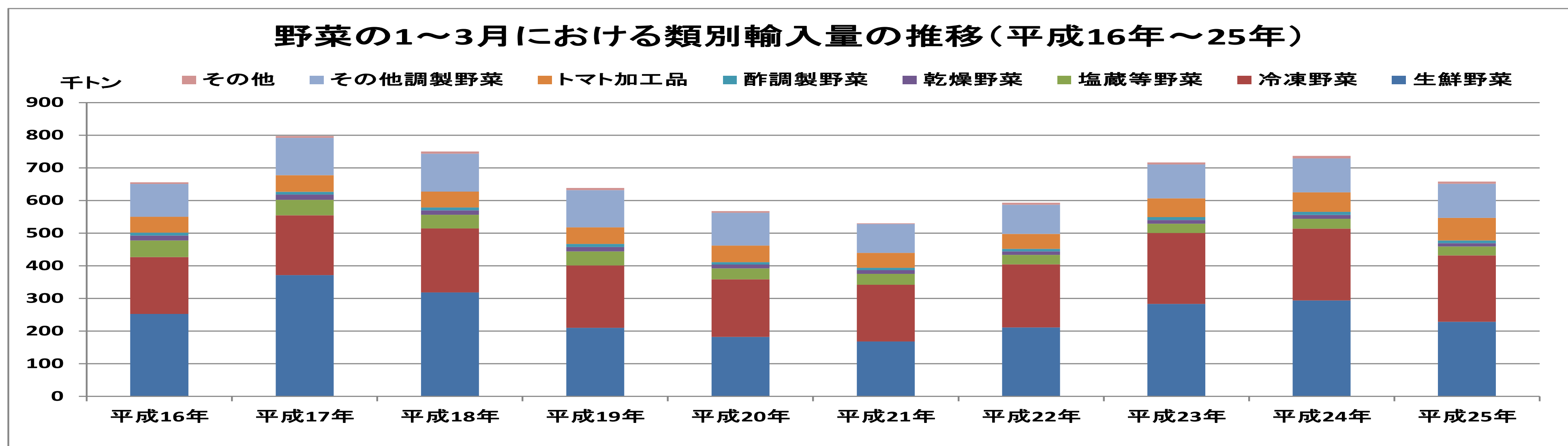
そうした中で平成25年は、4年ぶりに前年を下回り、類別では、トマト加工品とその他調製野菜を除いて減少した。特に、生鮮野菜は、対前年78%と大幅に前年を下回った。一方、トマト加工品は、同116%となり、前年を大幅に上回った。

生鮮野菜、冷凍野菜及びトマト加工品の主要品目の動向を見ると、平成23年以降、生鮮野菜でたまねぎ、冷凍野菜でばれいしょが大幅に減少したものの、トマト加工品でトマトピューレ等関割以外が大幅に増加した。

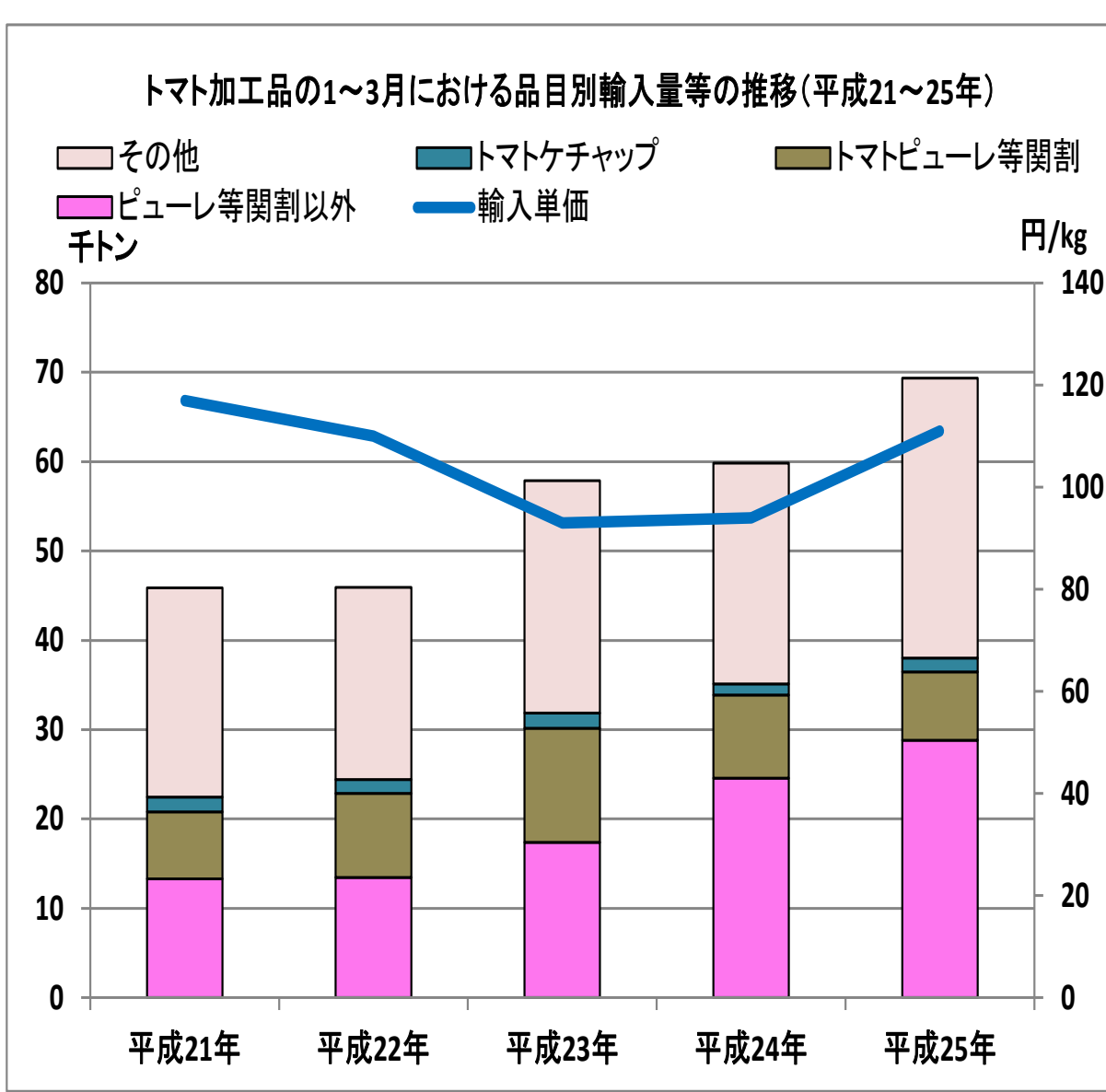
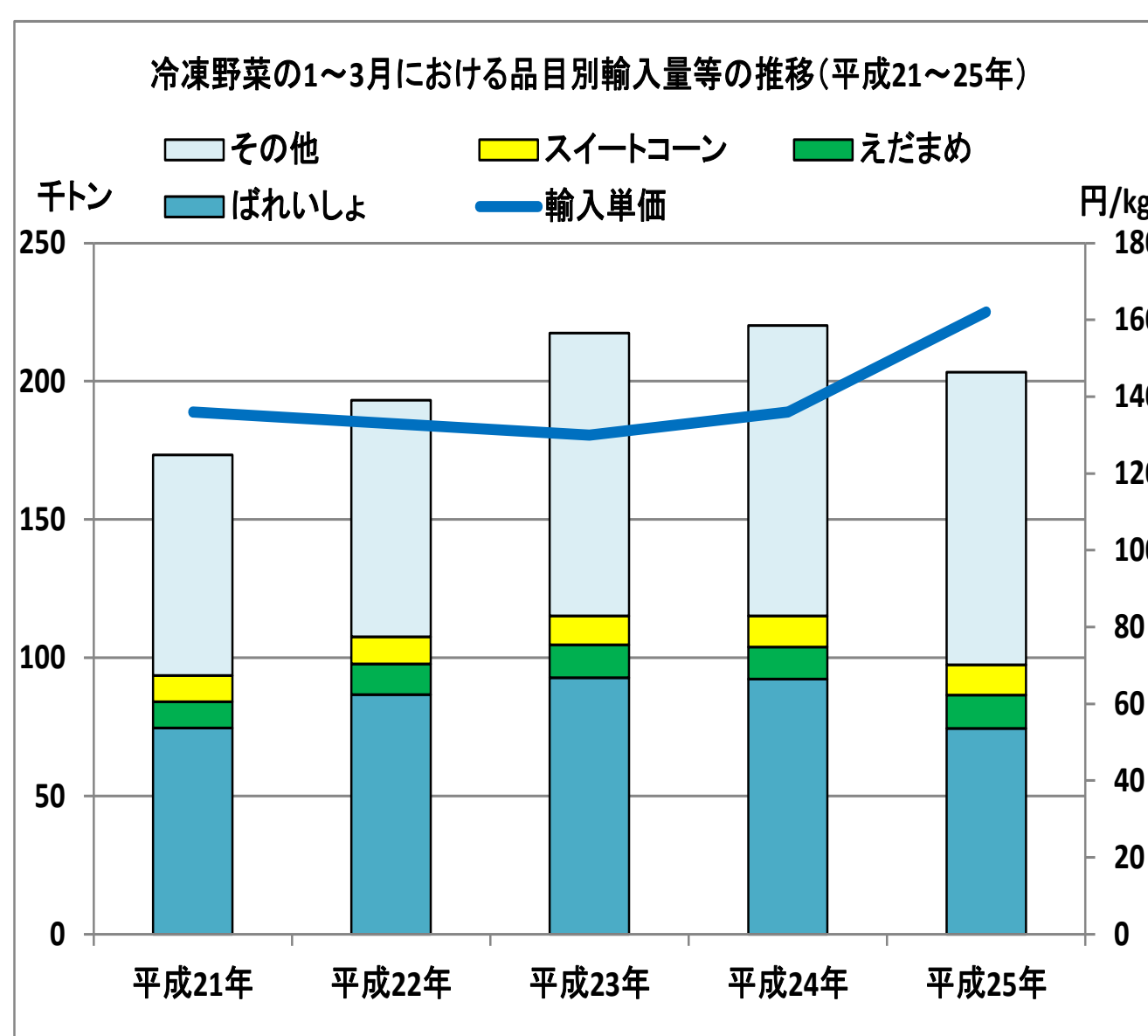
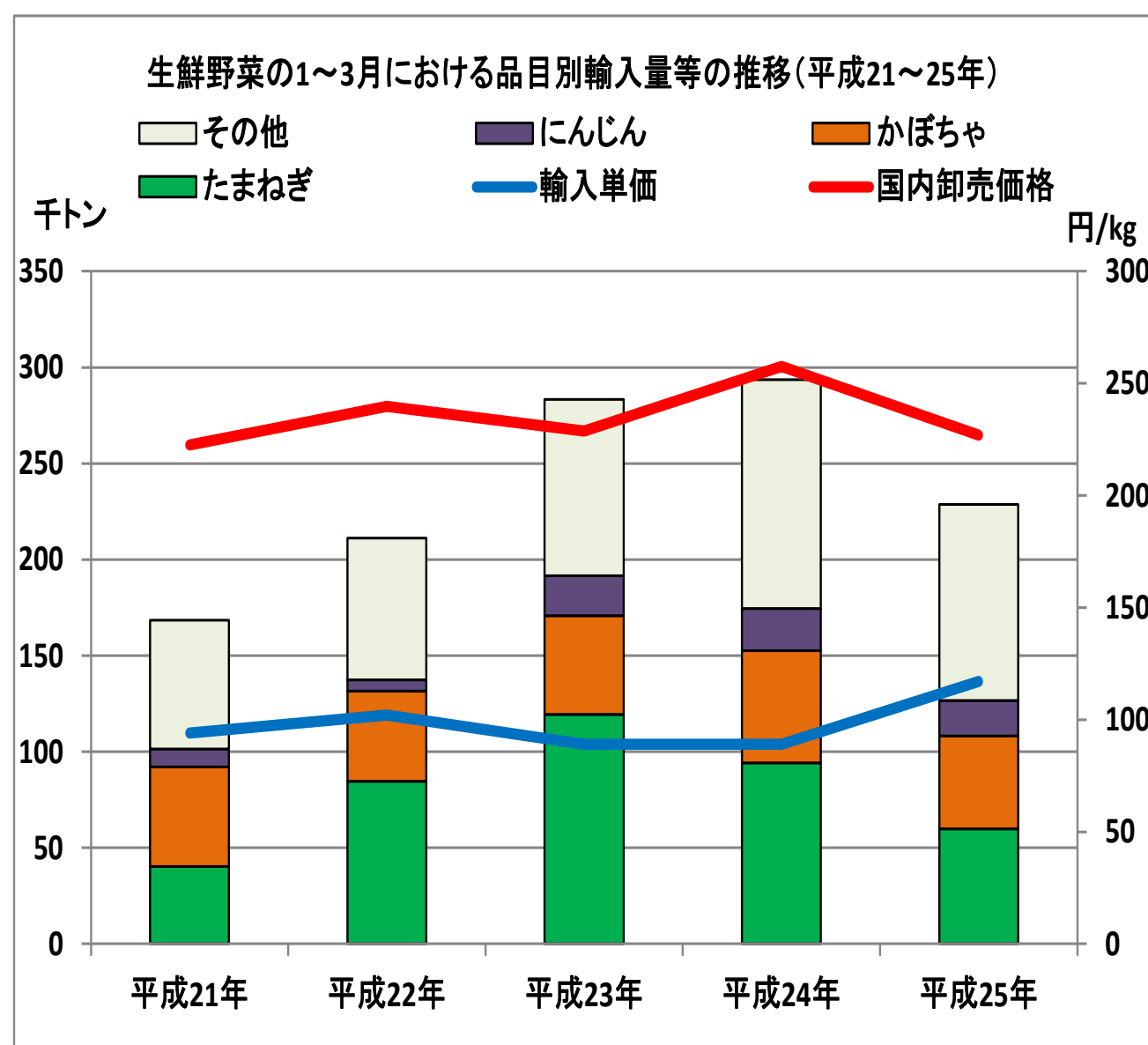
平成25年の国内の卸売価格は、国内産の潤沢な出回りを受けて前年より安くなっている中で、円安の影響等を受けて輸入単価は上昇しており、生鮮野菜及び冷凍野菜の輸入量の減少要因になったものと思われる。

一方、トマト加工品は、輸入単価が上昇しても、輸入量が増加しており、健康志向や食生活の洋風化が後押ししているものと思われる。

今後も、国産の生鮮野菜の潤沢な供給や円安の影響等を受けて、野菜の輸入はしばらくは減少傾向が続くと思われるものの、需給の動向によっては一変する可能性もあることから、今後の輸入動向に注視する必要がある。



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」、青果物情報センター

注：国内卸売価格は、東京都中央卸売市場の野菜総量の卸売価格。 輸入単価及び国内卸売価格は、各年の1～3月の加重平均。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。